



(写真 米山淳一)

開館20周年を迎えた山手234番館

公益社団法人横浜歴史資産調査会理事・関東学院大学教授 水沼淑子

山手 234 番館は山手本通り沿い、元町公園に面して建つ。昭和 2（1927）年頃に外国人向アパートメントハウスとして建設された。山手は関東大震災で壊滅的な被害を受け、復興のためには他都市に移っていた外国人たちに戻ってもらうことが重要で、横浜市は自ら外国人向け市営住宅を山手などに建設した。山手 234 番館は民間が建設したアパートメントハウスだが、その意図は横浜市と同じで、外国人に帰浜を促すための魅力的な住宅の実現だった。

昭和 5（1930）年に横浜市が出版した外国人向けパンフレット「YOKOHAMA」掲載の山手本通りの写真には、234 番館がほぼ中央に写っている。正面のデザインは現在とは異なり隣接する 89-6 番館（現えの木てい）と共通するデザインで、更にその隣にも同様のデザインの建物が連続する。奥に写る山手聖公会と相俟って、山手の復興を深く印象づける構図となっている。すなわち復興横浜のシンボルとなる景観の一部だったのである。

さて、その 234 番館だが、平成元（1989）年横浜市が歴史的景観の保全を目的に取得した。平成 9（1997）年から保全改修工事が行なわれ、平成 11（1999）年に一般公開された。開館から数年は、市民ボランティアが運営を担っていたが、その後は公益財団法人横浜市緑の協会が管理運営し今日に至っている。

今年は開館して 20 年の節目の年。当初 4 戸からなるアパートメントハウスだったことをうまく生かし、活用を念頭に置いた大胆な改修が行なわれており、ギャラリーやセミナールームなどを常設していることから多くの市民が利用している。

山手のほぼ中央に位置し活用に適した空間を持つ洋館であることから、山手の魅力を発信する拠点として更なる活躍が期待される。

歴史的建造物の宝庫 横浜山手

公益社団法人横浜歴史資産調査会理事・関東学院大学教授 水沼淑子

山手に残る歴史的建造物

横浜は歴史的建造物の宝庫である。歴史を生かしたまちづくりを標榜する横浜市ならではの、その中でも、山手地区には多くの歴史的建造物を確認することができる。保護保全の種類別にどのような西洋館があるか見ていこう。

まず、「国指定重要文化財」。イタリア山庭園にある「外交官の家」である。外交官内田定槌氏の邸宅として、明治 43（1910）年に東京渋谷の南平台に建てられた。設計者はアメリカ人建築家 J.M. ガーディナー。縁あって平成 9（1997）年に横浜市が寄贈を受け現在地に復原した。当時アメリカで流行していたアメリカンビクトリア様式の華やかなデザインを特徴とする。渋谷時代は和館が併設されていたが洋館部分のみ移築された。

次に「横浜市指定有形文化財」。山手 111 番館、横浜市イギリス館、山手 214 番館が指定されている。111 番館はアメリカ人建築家 J.H. モーガンの設計で大正 15（1926）年、アメリカ人ラフィン氏の住宅として建設された。ファサードの 3 連アーチ、白い壁と赤い屋根をもつスペインッシュ様式の住宅で、中央に吹き抜けを設けるなど平面にも特色がある。後述のベリック・ホールも同じくモーガンの設計である。イギリス館はイギリス総領事官邸としてイギリス政府工務局上海事務所が設計を担当し昭和 12（1937）年に建設された。鉄筋コンクリート造 2 階建て、コロニアルスタイルの穏健な西洋館だが、モダニズムの影響も見て取れ、戦前期の山手西洋館としてはほぼ最後尾に位置する作品として興味深い。214 番館は昭和初期建設の西洋館で現在は横浜共立学園の同窓会館となっている。隣接する横浜共立学園の本校舎も市の指定有形文化財で W.M.ヴォーリズの設計で昭和 6（1931）年に建設された。ヴォーリズの作品は関西に多く、横浜のヴォーリズ作品として貴重である。

最後は横浜市の歴史を生かしたまちづくり要綱に基づいて認定された「横浜市認定歴史的建造物」のグループ。西洋館など住宅系の建築は 20 件近くあるが、その中で横浜市所有の公開西洋館は 4 棟ある。エリスマン邸、ブラフ 18 番館、ベリック・ホール、山手資料館、山手 234 番館である。その他は個人所有で非公開の建物が多い。このように山手には数多くの歴史的建造物が積層し、山手の歴史を物語ると同時に緑豊かで趣のある景観を形作っている。

歴史的建造物を守る制度

さて、山手には多くの歴史的建造物があるものの、とりわけ個人所有の建造物は失われつつある。山手は日本でも有数の高級住宅地である。歴史的建造物の建つ土地をそのまま継承し続けることは至難の業である。公開西洋館のように自治体が取得し保存するという手法は、近年全国的に見ても減少してきているのも事実である。

であれば、どうすれば西洋館を継承できるのか。

山手の歴史的景観は横浜の宝である。西洋館のみではなく、山手公園は国の名勝となっている由緒正しい公園だし、山手の緑被率は横浜中心部の中でも群を抜く。さらに、現在も多くの住民が暮らし、多くの生徒が学び、多くの人が働き、国籍を問わず多くの人が訪れる地域である。日々の暮らしを育みながら、過去と未来、歴史ある建物と生活者や観光客など多様な人々が共生できる場所となるために、今こそできることをすべてやるときのように思われる。メニューは色々あるだろう。先駆事例を見極めながら、横浜らしく、横浜でしかできない方法を見つけていきたい。



国指定重要文化財 外交官の家



横浜市指定有形文化財 山手111番館



横浜市指定有形文化財 横浜市イギリス館



横浜市指定有形文化財 山手214番館



横浜市指定有形文化財 横浜共立学園本校舎



横浜市認定歴史的建造物 エリスマン邸



横浜市認定歴史的建造物 山手資料館



横浜市認定歴史的建造物 プラバ18番館



横浜市認定歴史的建造物 ベーリック・ホール

吉田鋼市副会長 第68回横浜文化賞受賞

当公益団体の吉田鋼市副会長は、このたび横浜市の最高顕彰であり、文化の発展に尽力し、その功績が顕著な方々に対して贈られる横浜市文化賞を受賞しました。

吉田副会長は、横浜市内の近代建築を調査研究し、その歴史や魅力を検証してきたこと、また横浜の建築史について学問的に大きな功績を残すとともに、多くの著書や講演を通じ、その文化財的価値を広く紹介してきたことなどが高く評価されました。

また、赤レンガ倉庫や横浜生糸検査所など、著名な歴史的建造物はもちろん、地域の歴史や生活、経済に関わ

る多様な建築まで、横浜のみならず県内外の幅広い地域を対象に、専門的見地に基づき、建造物の保存と活用に尽力されています。

【プロフィール】1947年生まれ。横浜国立大学名誉教授、公益社団法人横浜歴史資産調査会副会長。横浜市文化財保護審議会委員、横浜市歴史的景観保全委員、建築史学会会長等を歴任。『日本の盛期モダニズム建築像』他、著書・訳書も多数。



「歴史を活かしたまちづくりファンド」への寄付のお願い

「歴史を活かしたまちづくりファンド」は、皆さまの貴重な寄付によって成り立ちます。

「歴史を活かしたまちづくりファンド」に造成された基金は、歴史的資産等の調査、修理、取得、管理、啓発等に関するプロジェクトに使用いたします。

横浜歴史資産調査会は内閣府認定の公益社団法人であり、免税団体です。「歴史を活かしたまちづくりファンド」への寄付金は、税法上の優遇処置（寄付金控除）を受けることができます。お申し込みの方は、事務局まで住所等連絡先をお知らせください。横浜を愛する皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

- 個人：一口 3,000 円
- 団体・企業等：一口 100,000 円
- 振込み先：横浜銀行 県庁支店 普通口座 6046423
「歴史を活かしたまちづくりファンド」

【お問い合わせ先】

公益社団法人横浜歴史資産調査会 事務局

〒231-0012 横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル 405 号室

TEL/ FAX : 045-651-1730

E-mail : yh-info@yokohama-heritage.or.jp

「歴史を活かしたまちづくり相談室」受付中！ 皆さまからのご相談をお待ちしております。

【お問い合わせ先】公益社団法人横浜歴史資産調査会（ヨコハマヘリテージ）内「歴史を活かしたまちづくり相談室」

〒231-0012 横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル 405 号室

TEL/ FAX : 045-651-1730

E-mail : yh-info@yokohama-heritage.or.jp

ヨコハマヘリテージは免税団体です

歴史的資産の保存活用を推進するために、皆様のご寄付をお願いしております。ご寄付を頂いた方には、免税証明を発行いたします。確定申告の際に控除となります。

【2019 年度 賛助会員・団体会員の皆様】

いつもご支援をありがとうございます

公益財団法人はまぎん産業文化振興財団、相鉄企業株式会社、株式会社三陽物産、NPO 法人横浜コミュニティデザイン・ラボ、横浜市大倉山記念館（順不同）

「シルクロード・ネットワーク・南砺フォーラム2019」の開催

当公益社団（以下、ヨコハマヘリテイジ）が中心となって設立し、絹の歴史と文化を守り育てる地域や関係者が集う「シルクロード・ネットワーク協議会」のフォーラムは、平成27年度に横浜市から始まり、新庄市、福島市、鶴岡市と開催を重ね、5回目となる本年度は富山県南砺市において、6月22日（土）～23日（日）に開催しました。主催はヨコハマヘリテイジとNPO法人街・建築・文化再生集団（通称RAC、前橋市）、共催は南砺市。

南砺市は、合掌造りの五箇山が養蚕、砺波平野の城端町が絹織物、彫刻の町井波が蚕種とまさに絹産業の拠点と言えます。22日の見学会は各町を巡り、絹文化を体感。フォーラムは、田中幹夫南砺市長のご挨拶に始まり、「城端の織物の歴史」、「井波の町並み保存」、「井波の町家再生」をテーマにした講演や、全国各地から絹文化を生かしたまちづくりの発表がありました。これを受けて参加者皆でシンポジウムが行われ、城端の絹文化の継承や井波の町並みを伝統的建造物群保存地区に導く方針が示されました。



絹産業の町井波の瑞泉寺は井波彫刻の結晶

「第22回全国近代化遺産活用連絡協議会鳥取大会」に参加

ヨコハマヘリテイジは、我が国の近代化に貢献した産業、交通、土木遺産の保存活用を進める全国組織である「全国近代化遺産活用連絡協議会」に今年度から加盟し、7月24日（水）～26日（金）に開催された同協議会の総会、講演会、見学会に参加しました。

同協議会は、平成8年に設立され「活用なくして保存なし」のスローガンのもと、全国の都道府県、関係市町村や団体、企業が加盟し、毎年総会等を開催しています。総会、講演会を順調に終え、見学会は「旧美敷水源地下水道施設」（国指定重要文化財）。荒廃していた同地を鳥取市が復元し公開に至っており、山峡の地に洋風のポンプ小屋とろ過池が点在し、見事な歴史的景観を形成しています。山陰本線餘部橋梁跡なども見学し、盛況のうちに閉会となりました。



旧美敷水源地下水道施設（国指定重要文化財）

「日本鉄道保存協会総会2019長浜大会」の開催

ヨコハマヘリテイジは、歴史的鉄道車両や施設構造物、関連資料の保存活用を推進する全国組織である「日本鉄道保存協会」に今年度から加盟し、9月26日（木）～27日（金）、長浜市、敦賀市、南越前町で開催された同協会の総会、講演・シンポジウム、見学会に参加しました。

当日は、全国からJRを始め加盟団体約90名が出席し、藤井勇治長浜市長のご挨拶のもと総会等が始まりました。開催地の長浜市をはじめ3市町の自治体は、旧北陸本線に残る近代化遺産としての鉄道遺産を保存活用するために協議会を設立。鉄道遺産をまちづくりや地域活性化に生かしています。2022年の鉄道開業150周年を間近に控えている横浜も大いに見習いたいものです。

なお、同協会の代表幹事団体は、長年、公益財団法人交通協力が務めてきましたが、事情によりその役目から降りることとなり、ヨコハマヘリテイジがその後を引き受けることとなりました。鉄道発祥の地 横浜として頑張ってお参りたく存じます。



旧北陸線山中隧道（国登録有形文化財）とD51バス

「第1回旧湘南電鉄瀬戸変電所保存活用委員会」の開催

京急電鉄金沢八景駅に隣接する昭和4年に建造された「旧湘南電鉄（京急電鉄の前身）瀬戸変電所」（鉄骨コンクリート製）の将来にわたる保存活用を目指して、京急電鉄のご協力のもと、横浜市都市デザイン室とヨコハマヘリテイジは力を合せて現況調査を行ってきました。そしてこのたび、具体的な保存活用策定に向けた委員会をヨコハマヘリテイジの自主事業として設置し、10月2日（水）京急電鉄本社会議室で第1回目の委員会を開催しました。当日は、これまでの経緯やコンクリート成分調査、耐震、振動調査報告や具体的な保存活用案が話し合われました。同委員会は今年度中にと2回の開催を予定しています。

委員会のメンバーは、委員長に後藤治氏（工学院大学理事長）、委員に西澤英和氏（関西大学教授）、田村雅紀氏（工学院大学教授）、小野田滋氏（公益財団法人鉄道総合技術研究所情報管理部長）、山本博士氏（公益社団法人神奈川台場地域活性化推進協会代表理事）、梶山祐実氏（横浜市都市整備局都市デザイン室長）、吉田鋼市（当公益社団副会長）です。（順不同）。事務局は、米山淳一（当公益社団常務理事）、菅井稔（当公益社団主任研究員）。



関西大学西澤研究室らによる耐震振動調査

（写真・文 米山淳一）